



2040年住宅着工数予想は44.2万戸！

2025年3月の三菱UFJリサーチによると、住宅着工数は2030年度、73.5万戸、2040年度、44.2万戸、2050年度には34.4万戸になると予測している。

現在、日本の世帯数はまだ増加(核家族化)を続けているが、総人口の減少傾向は加速化している。2030年代前半には世帯数も減少に転ずるとみられる。又住宅の性能が向上している事等から既存住宅の利用年数は伸びており、建て替え需要も減少している。これらの事からも住宅着工数は減少すると思われる。

空き家(別荘や一時入居を除く)についても当然増えてくるが、空き家率は2050年に、3大都市圏で18.9%、3大都市以外の地方圏に限ると24.2%(4軒に1軒は空家)と予想している。他方、2025年6月の野村総研のレポートでも持家や分譲住宅の低下が予測され、2030年度は80万戸、2024年度61万戸と予想している。しかし、昨年度(2025年度)の実績が74万戸(今年度1~3月で前年比△9100戸)であったことから既に大きくずれている。これは予測データの指標以外のイベント(状況)の影響と思われる。

今年2月末の米国・イラン戦争勃発以降、石油設備の破壊やホルムズ海峡封鎖等で石油の枯渇が心配され備蓄石油の放出も行われたが、石油関連のナフサ等の入荷が滞り、各業界で製品不足・仕様変更が言われている。木材価格は安定(運送費高騰や電気代の上昇から、これ以上の下落は考えられない)しているが、合板やルーフィング・透湿シート、建材、住設機器等の受注停止。入荷未定や高騰で混乱し、見積や着工を見合わせている工務店も多いと聞く。今後の先行きも見えず、木材業界は厳しい状況が続くと思われる。

【情報】

「日本の食・農・村を語る」講演会が行われます！

混沌とした世情の中で、小農業の復活こそが日本を元気にすると頑張っておられる「かごしま小農塾」主催です。大量生産・大量消費・コスト重視の中で、「手間暇の掛る小農業」こそが、健康を守り日本を元気にするという講演です。林業にも通じるものがあるように思います。

講師 塩井 修 氏(元・新潟県農業改良普及員)

日時 令和8年6月19日(金) 18:00~20:00

場所 かごしま勤労者交流センター 7F(中央駅前キャンセビル)

会費 無料(終了後希望者で懇親会@3000を開く)

連絡先 萬田正治(元・鹿児島大学副学長) TEL09067766419

【定休日】

6月は6, 7, 13, 14, 20, 21, 27, 28日

7月は4, 5, 11, 12, 18, 19, 20, 25, 26日となります

宜しくお願いします

木育インストラクター募集チラシ

(お問い合わせは、吉崎まで)